

4月17日に6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、全国調査の結果がまとめられました。本調査は国語と算数、理科の3教科のテストと、家庭での過ごし方や学習時間を問う児童質問紙調査を実施しています。結果が届きましたので、概要についてお知らせします。

## 学力調査（国語科・算数科・理科）

国語と算数は全国平均をやや下回る結果、理科は全国平均とほぼ同じ結果でした。日々取り組んでいる姿勢が成果を上げているところがある反面、課題となる面も見えてきています。本校は少人数ゆえに一人一人の結果が全体結果へ与える影響が大きくなることを前提にして、国語・算数・理科それぞれについて、本校の子どもの優れているところや課題となるところについて分析します。

### 国語科



国語科の問題は、「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」「(2) 情報の扱い方に関する事項」「(3) 我が国の言語文化に関する事項」「A. 話すこと・聞くこと」「B. 書くこと」「C. 読むこと」の合計6つの内容で構成されています。

全体的に、「C. 読むこと」について、課題が見られました。「C. 読むこと」の力が問われる大問<sup>3</sup>では、複数の情報源（文章・図表・会話など）をもとに、目的に応じて情報を選び、整理して答える力が求められます。たくさんの資料の中から必要な情報を見つけ、関係づけることに課題が見られます。国語科のみならず、様々な授業で、表や図、会話文、説明文など異なる形式の情報を関係づけながら読み取る学習をしたり、多様な情報を分類・整理するような学習を行うようにしたりすることで、情報を整理したり比較したりする力が高まるように取り組みたいと考えています。

また、記述式問題の無回答があることも課題です。様々な教科の授業の中で、「どの情報が必要か?」「なぜその答えになるか?」を友だちと話し合う活動を通して思考を深め、理由を説明し合うような言語活動を取り入れることで、思考・判断・表現する力が向上することにつながるのではないかと考えています。

### 算数科

算数科の問題は、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」の4領域からの出題です。

全体的に、「A数と計算」について課題が見られました。数直線上で「1の目盛り」に着目し、分数を「単位分数のいくつ分」としてとらえることが十分でないことがわかりました。分数の学習は2年生の「単位分数」から始まり、3年生の「単位分数のいくつ分」、4年生の「同分母の分数の加減」、5年生の「異分母の分数の加減」、6年生の「分数の乗除」とつながっていきます。それぞれの学年で系統性を頭におきながら指導を着実に積み重ねていくことによって、分数の意味の理解につながると考えます。また、ペア学習やグループ学習、または全体で互いの考えを説明し合うことで、思考・判断・表現力の向上につなげたいと考えています。

また、国語科と同様に記述式問題の無回答が見られました。異分母分数を「もとにする数（単位分数）」を同じ数にして考えるという通分の考え方を数や言葉を使って答える問題では、「なぜそうなるのか」「どう考えたか」を説明する力が求められています。苦手意識をもっていたり、自分の考えに自信がもてなかったりして空欄にしていることが推測されます。日常的に「考えを図や式、言葉で説明する」学習を取り入れ、ペア・グループ学習で友達と話しながら考えることで、思考を整理する力がつくようにしていきたいと考えています。

## 理 科

理科の問題は、「エネルギーを柱とする領域」、「粒子を柱とする領域」、「生命を柱とする領域」、「地球を柱とする領域」の4領域からの出題です。

全体的に、「知識・技能」についてよい結果となりました。「ヘチマの受粉」や「水の結露」など、実際に実験を通して考えたことが、知識として身につけていることがわかります。課題として他教科と同様に記述式問題の無回答が見られました。原因として、文章量が多くて読解力が必要なのと、実験の手順や結果を読み取りそこから考察する形式で理科的な思考力も求められていることが考えられます。課題改善に向けて、考える力を育てる授業づくりに取り組み、予想→実験→結果→考察の流れを大切にして、「なぜそう思うのか?」「ほかに考えられることは?」など問い返すことで、思考の深まりを促すようにしていきたいと考えています。

## 児童質問紙

児童質問紙では生活や学習、自分自身のこと等71項目にわたる質問事項がありました。  
ここでは、いくつかの事項について取り上げます。



### 【全国の数値を大きく上回った質問】

#### ・「自分にはよいところがあると思いますか。」

「自分にはよいところがあると思いますか。」の質問に、全児童が肯定的な回答をしています。本校は少人数のため、教員が一人一人の児童に目を向けやすく、個別の良さや努力を認める機会が多く、「見てもらえている。」「認められている。」という実感が自己肯定感につながっていると考えられます。子どもたちの様子を見ると、発言や行動に対して不安を抱いている様子はなく、クラス内での心理的安全性が高まり、自分らしさを出しやすい環境になっていると思います。

### 【全国の数値を上回ったが、課題が見られる質問】

#### ・「5年生までに受けた授業で、PC、タブレットなどのICT機器を使用していましたか。」

本校ではGIGA端末が導入される以前からICT機器の積極的活用に取り組んでおり、ICT機器を活用した授業が当たり前のように定着している様子が、児童質問紙からの結果からもわかります。ただ、ICT機器を使って情報を整理したり、考えを伝えたりすることは、全国平均とほぼ同じ数値となっています。「何のためにICT機器を使うのか。」といった使用目的を明確にした活動を設計したり、写真・動画・文章をまとめたものを発表する機会を設けたりすることで、より効果的にICT機器を使用していくことができると考えています。

### 【全国の数値を大きく下回った質問】

#### ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」

全国平均よりも、肯定的な回答が低い数値となりました。対話的な授業の中で、クラスの友達との話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりする経験が少ないことが、理由として挙げられると思います。対話的な授業の充実とともに、授業の中で答えだけを求めずに違う考えを促すような発問をしたり、思考を揺さぶるような問いかけをしたりすることで、異なる考えから自分の考えを見つめなおすことの楽しさにつながるのではないかと考えます。

## 全体を通して

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちのもつ可能性を伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。本校では引き続き、少人数学級のメリットを生かした「一人一人を大切にした授業や指導」を心がけていきます。また、結果を踏まえ、主体的な学びに向かう力をつけていくために、今年度本校で育成を目指す資質・能力と設定している「自分の考えを分かりやすく話す力」と「相手の話を聞き、思いや考えを受け入れる力」を意識した授業の一層の充実を図りたいと考えています。

引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりに、ご協力をお願いいたします。